



「多久から発信！SDGs⑥」

「ものは形を変えて…」

現在、子どもたちが使用している教科書の裏面に「この教科書には次のような工夫や配慮を行っています」と記述があります。ではどのような工夫や配慮があるのでしょうか。9年生が使っている教科書のひとつには「再生紙・植物油インキの使用」「生徒の負担に配慮し、軽量な用紙を使用」「読みやすさと書きやすさを追求したデザインフォント(字体)を採用」などが記載されています。不要になった紙が再生され、子どもたちの力を大きく伸ばす教材になっています。

不要になったものを活用する場面は、学校でよく見受けられます。牛乳パックのリサイクルやペットボトルを利用した習字の筆入れ、図工の作品作りにはお菓子の空き箱。図書室の椅子の脚にはテニスボールを設置して、静かな環境を作り出す、といったこれらの取り組みは、自分もみんなも心地よいものです。もの形を変えて、さらに創造的な生活を生み出すという視点は、私たちの心を豊かにしてくれることにつながりそうです。

さて、5月5日は子どもの日。粽(まごころ)を食べながら、子どもたちの健康やかな成長を願いたいと思います。



連載

野の仏ギャラリー ③⑥

遊戯観音坐像

北多久町大字小侍

丸彫りの坐像で、台座と一体化しています。宝冠上に頭髪を丸く結び上げ、衣は両足の踵に達しています。左膝を立て、左手を膝に載せ、右膝を寝せ、右手を膝の後方に置いています。『仏像図彙』を参考にする、台座は雲を表現していると考えられます。また、同図に「墮落金剛山」と記載されています。仏典には「悪人に逐われ金剛山より墮落すれども、観音の力を念ずれば二毛も損すること能わず」と説かれています。



○遊戯観音は三十三体観音の一つで、江戸時代の仏画集『仏像図彙』に紹介されています。
○丸彫りは、石から像を彫り出すことです。
○仏典とは、『妙法蓮華経観世音菩薩普門品』です

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆「我老」と云われて肩をたたきいる
三十数年の心の結び
尾形 節子
- ◆この僕の命を懸けて人類の
平和を守る あなたと護る
野崎 隆幸
- ◆朝焼けの空にゆっくり陽が昇る
悲しからずや戦場照らし
浦野 嘉恵
- ◆靴ひもをギューと結んで春の野へ
わらびみつめて摘むを楽しむ
梶原恵美子
- ◆丈伸びて濃き緑葉の麦畑
春風吹けば海原のごと
川浪 信子

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆春浅く父の年忌を修しけり
おおやはな
- ◆春場所の幟並びし空の青
武富 律子
- ◆ていねいに生きると思ふ
彼岸寺
- ◆沈丁花旧家のつづく城下町
中嶋 清子
- ◆名草の芽日ごと伸びゆく
空地かな
本村 則子

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆似ていない写真がとても
お気に入り
松下 修
- ◆粹がるなしつぽの見える
野暮な人
大谷 和
- ◆海外で肩身の狭いロシア人
中尾 和弘
- ◆春日和海の向こうは大戦争
古賀 弘子
- ◆腹の中まっ黒ですと内視鏡
田代まつこ